

居宅介護・移動支援の 取り組みについて



一般社団法人
すたっぶ

理事 山口 久美子

法人概要

一般社団法人

指定年月日：2017年1月1日

- 指定障害福祉サービス事業所
- 所沢市障害児・者生活サポート事業所
- 障害児・者移動支援事業所



事業概要

- 主なサービス：居宅支援、重度訪問介護、
行動援護、同行援護
- 範囲：所沢市、狭山市
- スタッフ：13名
(介護福祉士、介護職員初任者研修)
- 福祉車両：1台



生活サポート事業

- 外出・送迎・宿泊・一時預かり・介助などの支援ができる。
- 埼玉県独自の事業で個人負担あり。
(1時間900円)
- 車を利用しての支援が可能。
(ガソリン代1km20円
事務所起点～支援終了まで)
- 家事援助はできない。
- 利用者一人当たり年間150時間以内。



移動支援事業

生活の楽しみを広げる支援

例えば・・・

- スタッフと一緒に買い物を楽しむ。
- 映画やカラオケ・コンサート・プールにでかける。



自立に向けた宿泊支援

- 自分で生活を作りあげる練習をする。
 食事のメニューを考える。
 買い物に行く。
 楽しい時間をつくる。
- 時には数人の仲間と一緒に宿泊体験。
- スタッフがサポート(同性介護)



レクリエーション

- 楽しい場所をみつけて遠出する。
- 旅行の計画を立てる。
- お菓子を作ってパーティーを開く。
- 参加者全員でアイデアを出し合って、何かを作ることに挑戦！



活動実績

(平成29年1月～9月)

利用者数：70名

1ヶ月の利用回数

居宅支援：51回(9名)

重度訪問介護：41回(2名)

行動援護：14回(5名)

同行援護：38回(9名)

移動支援：35名

生活サポート：35名

心がけていること

- ひとりひとりが大切にされ、自分らしい暮らしができるよう、みんなで支え合う。
- 制度を有効に活用しながら利用者が「自ら作り上げる生活」を目指せるように、利用者と一緒に考える支援に取り組んでいる。

その人に適した**情報提供**・**柔軟な発想**が大事！



その人に適した情報提供とは・・・



例:リハビリに通っている利用者の思い

・その日の担当者によってさまざまなリハビリを指導されるけど・・・

「自分で取り組めるリハビリはないかな？」
「効果の実感がほしい！」



情報

外出支援に「プール利用」を入れた。(PTと相談の上)

生まれて初めて水に浮く体験ができた。
月に1回続けることで、生活にハリが出てきた。



利用事例

Aさん 50代 女性

- 自営業(飲食店)で中心となって働いていたが、交通事故後に車いす生活になり、記憶も低下した。
- 意思疎通が難しく、同じことを繰り返し話す。

移動支援＋生活サポートを
週1回利用開始

- じっくり話を聞いたところ、入院していたリハビリ病院に行きたいことがわかった。

- 家族は多忙であり、遠方のリハビリ病院まで送迎する余裕がない。
- 移動支援＋生活サポート(2時間)で他市のリハ病院に送迎した。
- リハビリ病院の担当看護師やケースワーカーに会うことができ、希望がかなった。

「同じことを繰り返し話す」

リハ病院の担当スタッフのことを覚えていて、「会いたい」と繰り返し伝えようとしていた。